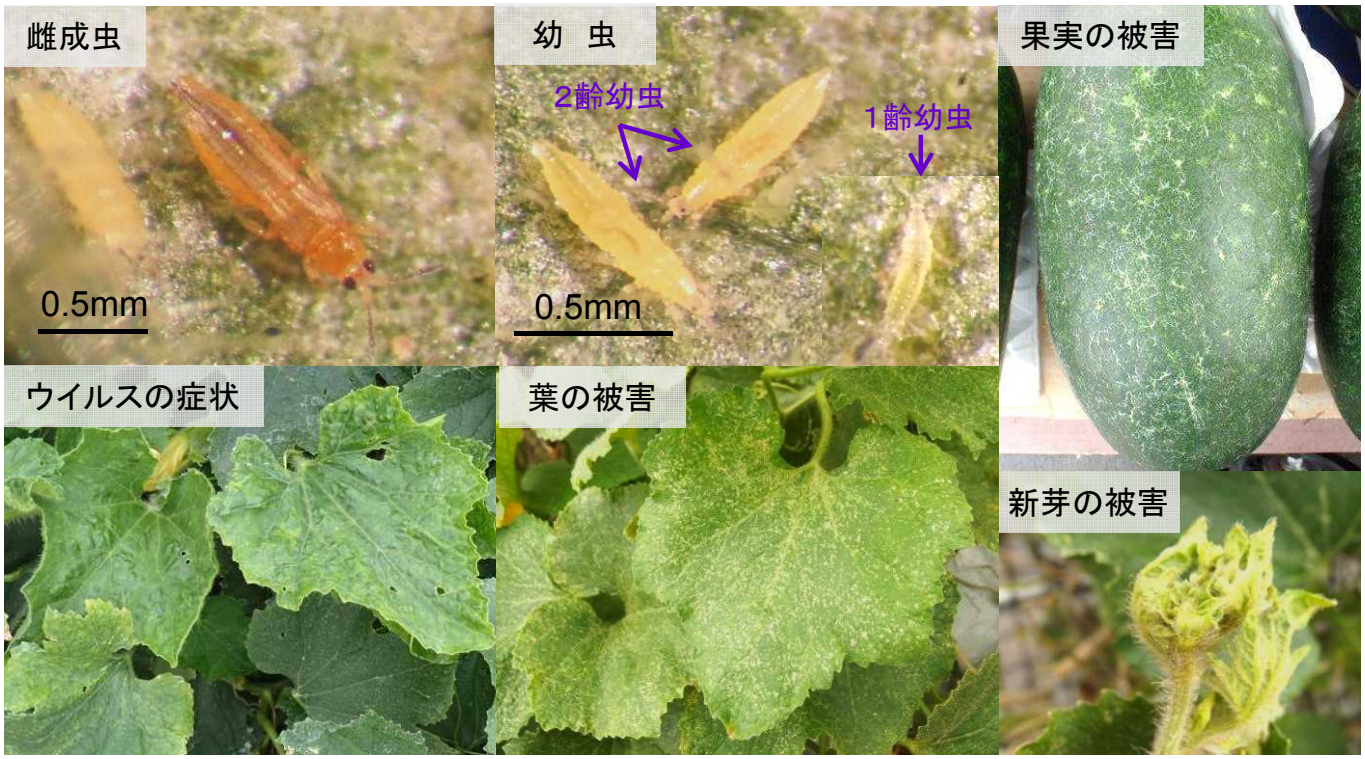
平成29年度病害虫発生予報第2号（5月予報）

＜今月のコラム＞　・トマト黄化葉巻病の防除は栽培終了後が最も重要です
・台風シーズンの病害虫防除対策について
・梅雨の時期が近づいています

＜お知らせ＞　**さとうきびにおけるメイチュウ類の発生推移について以下URLに掲載しています。**
http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/byogaichubojo/documents/meichu.html
マンゴーにおけるチャノキイロアザミウマの発生推移について以下URLに掲載しています。
http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/byogaichubojo/documents/chanoki.html

今月のトピックス

ミナミキイロアザミウマ（とうがん）
学名：*Thrips palmi*



生態と被害

本種は野菜類を中心に多くの作物を加害する。成虫の体長は雌約1.3mm、雄約1.0mm、体色は橙黄色。翅の合わせ目が黒く筋状に見える。幼虫は幼齢時は乳白色であるが、発育すると黄白色になる。

とうがんでは、成幼虫が新芽、葉、雌花の子房を摂食加害する。卵は植物の組織内に1個ずつ産み付けられる。老熟した幼虫の大半は土壌表面や落ち葉の中で蛹化する。卵から成虫までの発育期間は、25℃下では約14日である。多発すると、新芽は黒色に変色し、葉は葉脈沿いにかすり傷のような小斑を引き起こす。開花前の雌花の子房が加害されると、果実が肥大するにつれて表面の傷が目立つようになる。また、本種は葉の黄化や芯止まりの原因となるウイルス病原体を媒介する。

防除対策として、健全苗の定植、ほ場周辺の除草、施設入口の二重被覆、UVカットフィルムの被覆等の耕種的・物理的防除に努める。発生初期に薬剤散布を徹底防除する。とうがんは地這栽培のため薬剤が葉裏にかかりにくいので側窓・通路両側から丁寧に散布する。

http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html

平成29年4月28日
沖縄県病害虫防除技術センター